

令和8年度までの目標		国語		算数・数学	
		自校A B層の割合	55%	自校A B層の割合	55%
目標達成に向けた取組					
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障		学習習慣の確立	
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 授業において一人一台タブレット端末やホワイトボード等を適切に活用することで学習内容を充実させる。 学びの調整として、毎回の授業で自分の考えや振り返りを書かせ、児童の学習状況に応じた指導を行う。 授業の中で個に応じた支援をする時間や協働的に学ぶ時間を意識的に設定することで指導力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着の時間として「杉ニタイム」を設定し、「ドリルパーク」を行う時間とする。 読解力を高めるために、毎週木曜日の朝学習として「スギニyomuyomuタイム」を5・6年生を対象に実施する。 2年から6年生で東京ベーシックドリル診断テストを年間3回実施する。加えて4・5年生は江戸川区学力定着度調査を年間3回行い、児童の苦手を把握し、授業や補習で取り扱う。 		<ul style="list-style-type: none"> 江戸川っ子study weekとスギニ家庭学習キャンペーンを関連付け、保護者に家庭学習の実施を確認してもらう機会として学期に2週間程度実施する。 「江戸川っ子読書科コンクール」及び「調べる学習コンクール」に取り組み、全員が提出できるようにする。 	
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 学習の際にヒントカードを提示したり、個別に支援をしたりすることで、課題解決に取り組めるようにする。 考えや振り返りを書く際に話型を提示する。また、個別にも支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テスト・区学力定着度調査の結果から児童の苦手領域を把握し、「杉ニタイム」で重点的に取り扱う。 放課後補習において、習熟度別学習を実施できるようにし、1人1人にあった学習内容を実施できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> スギニ家庭学習キャンペーンの時期だけでなく、常に宿題の実施を確認できる連絡シートを活用し、家庭との連携を図る。 	
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 学校独自のアンケート「授業の内容は分かりますか」各学年・各教科肯定的意見 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 3回目の江戸川区学力定着度調査8割達成児童数 70%以上 		<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答割合 80%以上 	